

# 烏田社長と若手社員の座談会

本年4月1日に就任した烏田社長が、気象予報士の國本未華さんの司会進行のもと、若手社員と当社の魅力や未来へのビジョンを語り合いました。



司会進行

気象予報士

國本 未華さん

**國本**●早速ですが、若築建設は、どんな会社でしょうか？  
創業当時からの歴史なども含めて教えてください。

**烏田社長**●はい、今年で創業131年目を迎えることができました。若築建設は今から遡ること131年前の、1890年に北九州の若松で産声を上げました。当時の主要燃料は石炭で、福岡県には筑豊地区という非常に上質な石炭が大量にとれる炭鉱があり、筑豊で採掘された石炭の積出港として、若松港を開発するために設立されました。当時、若松港は福岡県直轄の港でしたが、福岡県の財政が厳しく、設計・施工・運営を当社が任されました。これは、現在のPFI事業のさきがけといえると思います。会社設立時は、資金面でかなり苦労しました。そこで、いま話題の渋沢栄一さんも株主として、また相談役として11年間にわたり事業を継続するための資金獲得もしていただきました。

**國本**●設立に、渋沢栄一さんが関わっていたのですね。新紙幣にも思いひとしおというところでしょうか。

**烏田社長**●偉大なる先人たちが会社を築いてくれたということ、我々も伝統として引き継いでいかなければならないと思っています。

**國本**●それから131年、若築建設は、一体どんな会社に成長されたのでしょうか？

**烏田社長**●若松港の開発から、港をつくる仕事を主としていましたが、現在では港湾（海上土木）工事が1/3、陸上土木工事が1/3、建築工事が1/3と様々な事業、建物を提案できる企業に成長しました。

**國本**●若築建設の社風はどのような感じでしょうか。

**烏田社長**●131年目を迎えた今年、「若き感性 築いた伝統」というコミュニケーションメッセージを打ち出しました。先程申し上げたような、先人が今日まで積上げてくれた伝統というのは、脈々と私たちの屋台骨となっています。あと、必要なのが若い方々の柔軟な感性であると考えています。若い社員の意見を積極的に取り入れ、140年、150年と魅力ある会社として継続していくことを目指しています。

**村上**●私は羽田空港滑走路の現場で働いています。

実際、先輩・後輩とコミュニケーションが取りやすい雰囲気、気が魅力だと思います。また、先輩がサポートしてくれるお陰ですが、私のような若い社員にも色々な仕事を任せてもらえます。

**國本**●若くして色々な経験ができて良いですね。

**村上**●実際に入社して、気付いた魅力なのです。この魅力をもっと多くの皆様に発信していくことも大切だと考え始めました。

**國本**●そうですね。実際に働いてみないと、わからない魅力がありますよね。

**戎**●私は人事部で採用を担当していますが、社外発信はとても大事だと思っています。人事部では、インターンシップや、採用活動にも一層力を入れて、ホームページやYouTubeなども活用しながら、当社の「中身」と「魅力」を、これまで以上にたくさんの方々に知ってもらいたいと思って頑張っています。

**國本**●確かに、会社の魅力を多くの方に知ってもらう、というのは大切な事ですね。具体的にはどのような情報発信をされているのですか？

**鳥田社長**●例えば、若松の本店と併設して「わかちく史料館」という当社の歴史がわかる史料館を、24年前に開館しました。当館では若松・洞海湾の130年の歩みを展示しています。北九州市外の方々にも親しんでいただけるよう、VRを活用して史料館内を見て周れるような動画もYouTubeに掲載しました。

**ケネス**●僕もそのVRを見たのですが、自分で目線を変えてみる事ができて臨場感もあって楽しかったです。特にスマホで観ると違いが良くわかりました。社員である私も、コロナ禍でわかちく史料館に行くことが出来ない状況でしたので、とても興味深く観ました。

**國本**●若築建設の歴史や取組み、だんだんわかってきました！社長、そんな若築建設が現在、携わっている大きなプロジェクトですか、重点的に取り組んでいる分野など、教えてくださいませんか？

**鳥田社長**●先程、村上くんが話してくれた羽田空港については、滑走路の増設を、設計から施工、維持管理に至るまでトータルで参画しています。また、2020年3月に供用を開始した那覇空港の第二滑走路の増設事業にも携わりました。ここでは、事業全体の中でも一番難しい工区の護岸工事を担い、約5年にわたる非常に厳しい工期だったのですが、台風や、海ならではの波などの難題もクリアし無事完成させました。中核である土木事業だけでなく、建築事業の収益力を強化しながら、同時に海外事業の収益基盤を強化していきたいですね。実績のある風力や太陽光など、再生可能エネルギー分野にも引き続き力を入れていきたいと考えています。

**國本**●私も気象予報士で、お天気の仕事をしていますので、風力発電や太陽光発電など、親近感を覚えますし、近年SDGsやカーボンニュートラルなどに照らし合わせても時代のニーズに即応していると思います。

**鳥田社長**●そもそも私共建設業の活動は、多岐にわたっていて、SDGsの17のゴールとも深く関わっている活動が多いのですよ。また、カーボンニュートラル、いわゆる脱炭素社会の

実現は地球温暖化の課題解決につながりますし、次の成長への原動力になるとともに、市場の開拓へも繋がるとも思っています。

**國本**●創業131年目、これからの原動力とということでしょうか？

**鳥田社長**●その1つのファクターですね。



鳥田社長

**大塚**●私は、防衛大学の建築現場で働いています。当社の、SDGsへの取り組み状況は、私の就活時の企業選びにおいては重要なファクターでした。その上で、若築建設は社会貢献活動にも積極的に取り組んでいると感じて入社し、いまそれを体感している所です。

**國本**●それはいいことですね！

社長、具体的には、どういう取り組みをされているのでしょうか？

**鳥田社長**●はい。建設工事では数多くの建設機械、海上では大きな作業船が稼働しています。その建設機械や作業船が排出するCO<sub>2</sub>を削減する技術、そして、環境再生事業などにも参画しています。海岸の清掃活動も長年に渡り継続的にを行っています。

**國本**●環境への積極的な取り組み、是非継続していただければと思います。ところで社長、最近、働き方改革というワードもよく耳にしますが、若築建設さんで取り組んでらっしゃる事はありますか？

**鳥田社長**●そうですね。働き方改革の一番の到達点は、「担い手の確保」だと考えております。次の時代を担う若者たちの働きやすい環境を構築するために、働き方改革が必要になります。まずは週休2日制を実現すること、残業時間をいかに減らしていくかを試行しながら、積極的に取り組んでいます。



村上さん

戎さん



ケネスさん

大塚さん



**國本**●具体的にはどのような施策を考えられていますか？

**烏田社長**●働き方改革を進めていくためには、いかに人を少なくして、効率よく作業を進めるかが必要になってきます。データ管理の更なる効率化や、ICTやブレキャスト技術を使った省力化の技術開発に注力していきます。

**國本**●烏田社長、本当にたくさんの事に取り組まれていますね。DX=デジタルトランスフォーメーションに関してはいかがですか？

**烏田社長**●実は、当社独自の、「若築DX」という戦略があるのですよ。ICT施工による半自動化や、非接触や遠隔化の技術開発も進めています。また、現場支援室を設置し、BIM/CIMを強化することで、働き方改革を推進しています。

**國本**●DXを働き方改革に活かしている事もすごく共感しますね。ダイバーシティへの取り組みも行われているのですか？

**烏田社長**●はい。現在、現場で働いている女性職員は21人います。建設業ということもありまして、どうしても女性社員の比率が低いという事がこの業界の特徴でもありました。しかし、これからは女性の力が必要となってきます。21人から更に人数を増やしながら、積極的に女性の活躍できる場を作りたいと思います。

**國本**●女性でたくましく活躍されている方がいると、私自身も勇気をもらいます。

**烏田社長**●「けんせつ小町」ってご存知ですか？「けんせつ小町」とは、建設業で働く全ての女性の愛称です。建設業界では女性にとっても働きやすく、また、働き続けられる労働環境の整備が進められているのです。お陰様で、当社は2018年に「けんせつ小町活躍推進表彰」を受賞する事もできました。

**國本**●おめでとうございます！  
ひょっとして、お二人も「けんせつ小町」の方ですか？

**大塚**●はい。「けんせつ小町」として日々現場で働き、やりがいを感じています。現場でも女性が働く環境が整備されているので、困ることもありません。

**戎**●私は事務職ですが、自分も同じく建設会社で働く「けんせつ小町」だと思っています。事務職・技術職にかかわらず、女性社員が入社することは仲間が増えるようで嬉しく思います。私もメインの業務である採用活動を通じて、これからもけんせつ小町を盛り上げていきたいと思っています。

**國本**●同じ働く女性として応援します！頑張ってください。

**大塚**●ありがとうございます！國本さんも頑張ってくださいね。実は、建設の仕事に天気予報はかなり重要な情報なのです。天気予報の内容次第では作業の工程を変更することもあります。

**村上**●当社の中核事業の海上工事では、雨風だけでなく、潮位、波高など広く深い情報の予測も非常に重要になります。國本さんの予報、頼りにしています。

**國本**●「おてんきこまち」で、頑張ります！

**烏田社長**●「おてんきこまち」良いですね！頼りにしています。ダイバーシティの取り組みの中で、外国籍の技術者の採用にも、継続的に取り組んでいます。

**國本**●ケネスさん、もそうですよね。ケネスさんはどちらのご出身ですか。

**ケネス**●私はインドネシアの出身です。

**國本**●ケネスさん、インドネシアのご出身なのですね。どんなお仕事をされているのですか？

**ケネス**●風力発電に関わる仕事が多いです。風力発電設備を建てるためのサイト（敷地）、そしてそこまで向かう道路の造成計画を専用のソフトを使って行います。現地調査に何回か行きましたが、普段行かないところに行けるのはもちろん嬉しいけど、それより何も無いところからどうやって道路を計画すればいいのかと想像するのが楽しいです。上司や先輩の方々もみんなとてもやさしくて、言語の壁はあるのですが、わからないところはゆっくり説明してくれたり、間違ったときはすぐ怒ったりしないです。日本の会社は厳しいと聞いていましたが、若築建設は全くそういう風に自分を感じていません。

**烏田社長**●ケネス君もですが、これまでにスリランカ・ミャンマー・インドネシア、など、たくさんの国の方の力を借りています。日本に限らず、世界中の人に一緒に仕事をしたい。門戸を開いていますから、これからどんどん海外の若者が、うちの会社の仲間になって一緒に働きたいと思っています。

**國本**●グローバルな視点で会社を運営されている事もよくわかりました。社長のご説明で、多様な人材の雇用機会という事にも触れられましたが、社員教育、いわゆるスキルアップ

を助けてくれる環境作りに関しては、いかがですか？

**鳥田社長**●私は、一人ひとりの社員が、自分の考えを持って行動できるようになってもらいたい、と思っています。たとえば若手社員が、その考え方をもって先輩社員にモノが言えるような環境を作っていきたいと思います。

**國本**●「はぐくみ」という教育プログラムもあるそうですね。

**鳥田社長**●はい。まさに「育んでいこう」という考え方です。例えば、新入社員時から管理職までキャリアアップする、それぞれの時期に合わせた研修を行っています。土木・建築・営業などの部門別の研修もあります。また、技術士、一級建築士などの資格取得の為の教育プログラムもあります。事務系の社員にも様々な教育プログラムがありますよ。

**國本**●社員それぞれのフェーズや、カテゴリーに合わせた研修制度があるのは良いですね。若手社員やこれから建設業界を目指す方々にとっても魅力的だと思います。若手社員の皆様実際いかがですか？



**戎**●私はこれまで「新入社員研修」や、技術職員の方と一緒に受講した「安全講習」、そして入社半年後に同期で集まって行った「フォローアップ研修」を受けました。特に都内の合宿場で行った新入社員研修は、2回参加しています。1回目はもちろん新入社員の時、2回目はその翌年で、引率する側として参加し、レクリエーションや講習の一部を任せられました。考えてみると、その時に入社して初めて「自分の力で何かをやり遂げる」という達成感を味わったように思います。自分が準備したグループワークに新入社員が取り組んでくれた様子を今でも思い出します。ただ仕事を任せられるのではなく、「思うようにやってみなさい」と仕事を任せられるのでは、仕事に取り組む意欲が違ふと思います。そういうこともあり、若手社員の主体性を大切にする社風は改めていいものだなと思いました。

**國本**●社長そして社員の皆様、今日は色々な事を教えていただきありがとうございました。最後に、鳥田社長、若手社員へのアドバイスや、これから建設業界を目指す若者へのメッセージ、そして社長が目指す、若築建設のビジョンを教えてください。

**鳥田社長**●國本さん、こちらこそありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染拡大という非常事態の中でも、現場それぞれが感染防止対策をきちんとして、1つとして現場を止めることなく、仕事を継続しました。建設業は、それだけ社会に必要とされている仕事です。当社の若手社員には、「そのような職種を選んだことを誇りに思ってもらいたい」と思います。これから一緒に働いていく仲間に向けて、伝えたいことが3つあります。

1つ目は「仕事というものは一人ですることではない」ということです。必ずチームで行います。ですから、わからないことがあれば先輩に聞くなど、コミュニケーションを十分にとりながら、チームとして取り組んでほしいです。

2つ目は、「分からないことを分からないままにして、やり過ぎさないこと」です。今だから聞けるということがあります。今だから聞ける、今だから先輩も答えてくれます。分かったふりをして、10年後に尋ねても誰も答えてくれません。今のうちに色々

なスキルを身に付けて、勉強してもらいたいです。

3つ目は、「とにかくものづくりに興味を持ってもらいたい」です。完成した時のお客様の笑顔をイメージしながら、ものづくりに興味をもっていただきたいです。社員みんなが働きやすい環境をつくるのが、私の仕事だと思います。働きやすい環境を作り、みんなが存分に力を発揮して、魅力のある会社になっていけばと思います。

**國本**●最後に社長ご自身が心がけていらっしゃるものが何かありますか？

**鳥田社長**●私と同郷（山口県萩市）の吉田松陰先生は「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり。」という言葉を残しています。この言葉の解釈は人それぞれあると思いますが、私は「まごころ」だと考えます。「まごころ」を尽くせば、必ずどんな人でも動いてくれる。逆に、「まごころ」を尽くさなければ人は動いてくれないと思います。皆さんにも「まごころ」をもって、仕事に取り組んでいただきたいと思います。

座談会動画はこちら ▶

